小学部中学年児童における「教えて」と要求することができるための取組

児童の実態

小学部中学年　自閉スペクトラム症、知的障がい
発達年齢：２歳７ヶ月

保護者のねがい

・自分の気持ちを伝えられるよう、言葉をどんどん増やしてほしい。
・「〇〇ください」「手伝ってください」がメインの言語表出となっているため、さらに具体的に伝えてほしい。

担任のねがい

・「手伝って」以外の言葉でも要求できるようになってほしい。
・コミュニケーションのレパートリーが増えてほしい。

アドバイザーからの助言(1回目)

- 自発的な要求ができることがメインの課題になる。
- 音声プロンプトは依存しやすいため、
  視覚プロンプトで取り組む。
- 日常生活の中で使える要求の言葉を1つ決めて、
  様々な場面で自発的に言えるようにする。

指導目標

課題学習時に、分からない場面で「教えて」と要求することができる。

指導Ⅰにおける指導の手続き

〈介入①〉

1. 食べ物カード５枚に、白紙のカード１枚を混ぜておき、
   フラッシュカード形式で提示する。
   このとき机上に「おしえて」カードを掲示しておく。

2. 白紙カードが提示されたらすぐに机上の「おしえて」
   カードを教員が指差し「教えて」と伝えるように促す。

3. カードを見て「教えて」と言うことができたら称賛する。

介入① 白紙カード

食べ物カード ５枚

１枚は裏返して白紙で提示

カードは数種類用意し、
毎日ランダムで取り組む。

〈介入①の結果〉

BL

・食べ物の名前を言う
（唐揚げ、クロワッサン等）
・カードをめくろうとする

おしえてカードを手がかりに
「教えて」と要求することが
できた！

指導Ｉにおける指導の手続き

〈介入②〉

1. 食べ物カード５枚に、本児が名称を知らない食べ物カード(ざくろ、春菊、ビーツ等)１枚を混ぜておき、フラッシュカード形式で提示する。
このとき机上に「おしえて」カードを掲示しておく。

2. 名称を知らないカードが提示されたらすぐに机上の「おしえて」カードを教員が指差し「教えて」と伝えるように促す。

3. カードを見て「教えて」と言うことができたら称賛する。

介入②　果物・野菜カード
（本児が名称を知らないものも含む）

知っているカード
４枚

＋

知らないカード
１枚

カードは数種類用意し、毎日ランダムで取り組む。

〈介入②の結果〉

何か答えなきゃいけないと思うのか、
知っている果物や野菜の名前を言ってしまう…

ざくろのカードを見て「いちじく」
春菊のカードを見て「ロメインレタス」など

指導Ｉにおける指導の手続き

〈介入③〉

1. 食べ物カード５枚に、本児が名称を知らない食べ物カード(ざくろ、春菊、ビーツ等)１枚を混ぜておき、フラッシュカード形式で提示する。
このとき机上に「おしえて」カードを裏返して白紙の状態で掲示しておく。

2. 知らない食べ物カードが提示されたらすぐに机上の「おしえて」カードを教員がめくって「教えて」と伝えるように促す。

3. カードを見て「教えて」と言うことができたら称賛する。

〈介入③の結果〉

プロンプトを手がかりに「教えて」と言えるようになったが、カードの名称をすぐ覚えてしまい、自発的な「教えて」がなかなか定着しない…

指導Ｉにおける指導の手続き

〈介入④〉

1. 食べ物の写真が入ったスライド５枚に、写真を縮小したスライド１枚を混ぜておき、フラッシュカード形式で提示する。
このときT2が「おしえて」カードを持って本児の後ろに待機する。

2. 縮小スライドが提示されたら、すぐにT2が「おしえて」カードを本児の後方から目の前に提示する。

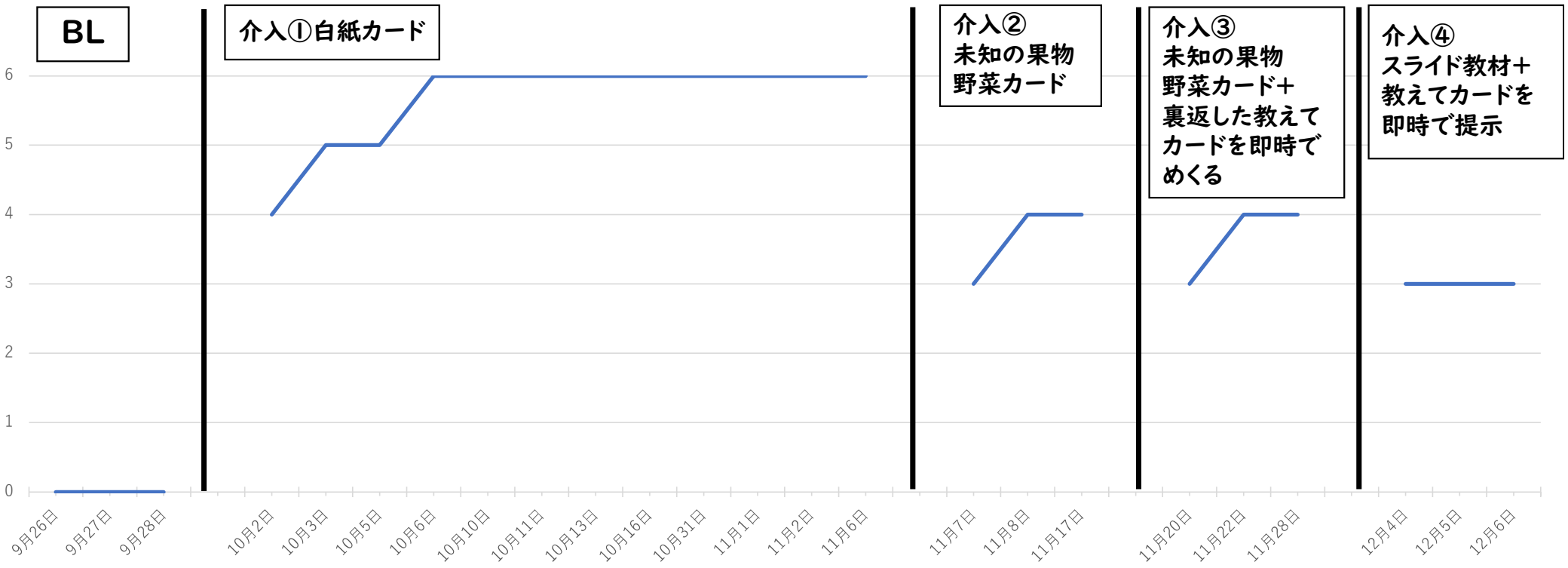
3. カードを見て「教えて」と言うことができたら称賛する。

介入④　カードから スライド式へ変更

「教えて」と言うと拡大ver.が表示される

記録方法

２点…指さし等のPt無しでできた
１点…指さし等のPt有りでできた
０点…Pt有りでもできなかった
☆１日につき3試行実施。（６点満点）



指導Ⅰ:分からない場面で「教えて」と言えた得点

2点…指さし等のPt無しでできた
1点…指さし等のPt有りでできた
0点…Ptありでもできなかった
☆1日につき3試行実施。(6点満点)

アドバイザーからの助言(2回目)

・スライド教材は作成がしやすいため良いと思う。

・カードなしでも言えるようにすることを目標にする。

・記号、漢字、会社のマーク等、本児が名称を知らないものを教材として使用すると良い。

引き続き、スライド教材で実施。
プロンプトなしで「教えて」を目指す！

指導Ⅱにおける指導の手続き

〈介入①〉

1. 食べ物の写真が入ったスライド５枚に、写真を縮小したスライド１枚を混ぜておき、フラッシュカード形式で提示する。
このとき机上に「おしえて」カードを掲示しておく。

2. 縮小スライドが提示されたらすぐに机上の「おしえて」カードを教員が指差し「教えて」と伝えるように促す。
(介入②③は指差しなし)

3. カードを見て「教えて」と言うことができたら称賛する。

介入① 大きい文字の「おしえて」カード
＋
T2が後方から机上のカードを指差し

介入② 大きい文字の「おしえて」カード(指差しなし)

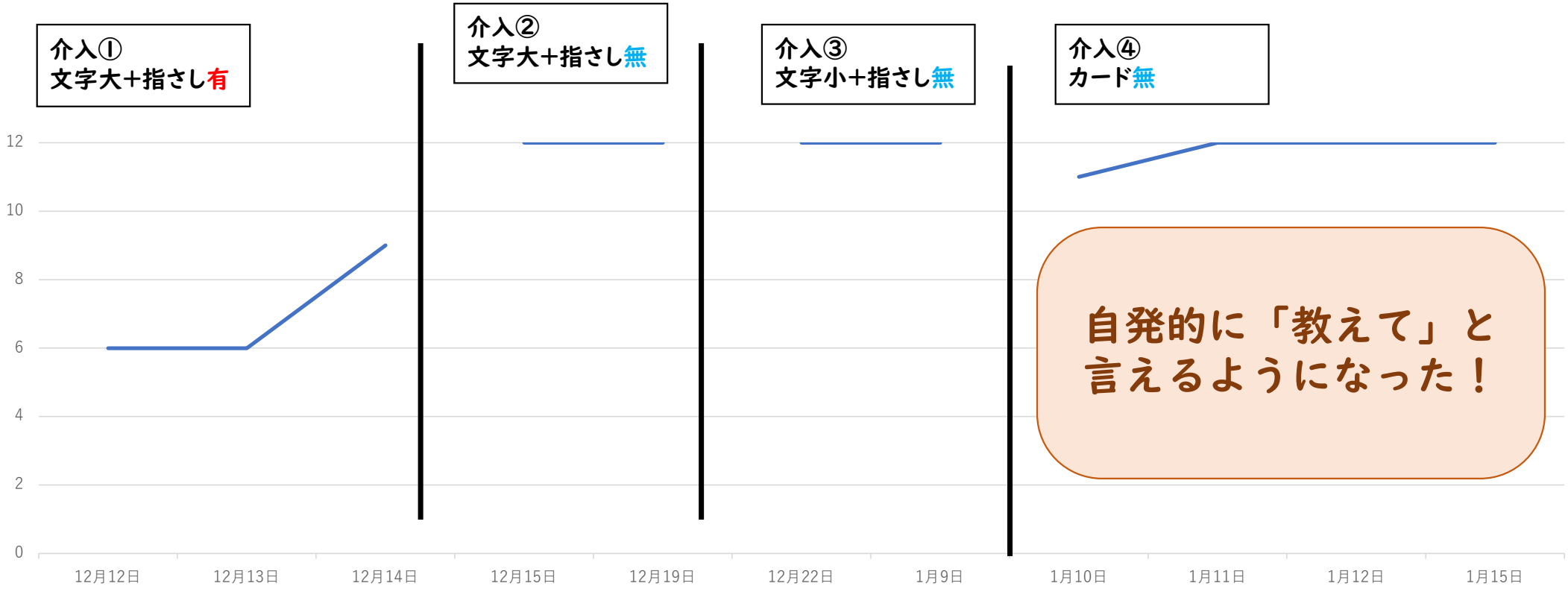
介入③ 小さい文字の「おしえて」カード(指差しなし)

介入④ カードなし

記録方法

2点…指さし等のPt無しでできた
1点…指さし等のPt有りでできた
0点…Pt有りでもできなかった

☆1日につき6試行実施。(12点満点)



指導Ⅱ:分からない場面で「教えて」と言えた得点

２点…指さし等のPt無しでできた
１点…指さし等のPt有りでできた
０点…Pt有りでもできなかった
☆１日につき6試行実施。（１２点満点）

今後の課題

・スライドの青丸マークが弁別刺激になっている可能性があるため、少しずつ弁別刺激を変更したり、フェードアウトしたりする。

・スライド教材の種類を増やす。
(記号、漢字、会社のマーク等)

→様々な教材で指導を重ねて、分からないときに「教えて」と言えば良いということが本質的に分かるようになることを目指す。

ここが成功のポイント

・本児が興味のあるもの(野菜・果物)を教材に使用したこと。

・指導の際にデータを取ることで客観的に指導方法を見直したこと。指導の手続きを試行錯誤するきっかけになった。